

表1 コンブ等加工残さ有効利用検討委員会構成員
=敬称略=

所属等	氏名	備考
久慈地方振興局水産部水産課長	菊池 経章	副委員長
岩手県水産技術センター利用加工部長	坂下 薫	-
普代村漁業協同組合参事	前川 健吾	委員長
普代村漁業協同組合総務部長	長根 利三	-
漁業者代表世話人 黒崎世話人	金子 智	-
漁業者代表世話人 太田名部世話人	太田 保正	-
漁業者代表世話人 普代世話人	深渡 稔	-
漁業者代表世話人 力持世話人	中田 孝一	-
漁業者代表世話人 白井世話人	前川 義雄	-
漁業者代表世話人 沢向世話人	宮本 安雄	-
漁業者代表世話人 堀内世話人	上田 昭一	-

表2 検討委員会の開催経過

委員会の開催	年月日	実施内容
第1回検討委員会	平成14年10月23日(水)	実施計画案の検討・コンブ等未利用資源の発生状況・コンブ等未利用資源の有効利用事例
第2回検討委員会	平成14年12月10日(火)	コンブ等未利用資源の有効利用検討
第3回検討委員会	平成14年12月25日(水)	コンブ等未利用資源の有効利用検討
第4回検討委員会	平成15年3月26日(水)	報告書とりまとめ



たい肥製造について真剣に語り合う検討委員の方々(和野山)

製品をつくるため、施設の稼働パターン別の概算施設整備費や維持運営費の試算、施設規模の検討、概算施設整備費の検討、収支予測など事業としての課題についても説明がありました。

第四回検討委員会は、十五年三月二十六日に同役場で十五人が出席、開催されました。

会議では、北海道の視察研修を踏まえ、十五年度はたい肥を試験的に生産してみたいと事務局から提案があり、出席者全員了解し委員会を終了しました。

同検討委員会のメンバーは、委員長に村漁協前川健吾は、委員長に久慈地方振興局水産部菊池経章水産課

は、委員長に村漁協前川健吾は、委員長に久慈地方振興局水産部菊池経章水産課

養殖コンブ、ワカメの葉先や根元付近などは、本来、有効に利用することが可能な資源です。村では、これらを「コンブ等未利用資源」として、再資源化について協議するため、平成十四年八月二十日、コンブ等加工残さ有効利用調査検討委員会設置要綱が施行され、十月二十三日、役場会議室を会場に十五人が出席して、第一回検討委員会が開かれました。

同検討委員会のメンバーは、委員長に村漁協前川健吾は、委員長に久慈地方振興局水産部菊池経章水産課

資源として利用できないか 調査検討委員会が発足する

組むことになっていきます。そのため処理に困った生産者が海峽へ投棄する場面が

ちらほら見受けられるようになり、環境へ悪影響を与えていました。

再資源化に3つの案を提示 飼料や肥料など原料に活用

第二回コンブ等加工残さ有効利用調査検討委員会は、同十二月十日、役場会議室を会場に開かれ、コンサルタントであるミクニヤ環境システム研究所の研究者から養殖コンブ残さの有効利用について、次の三つの案が提示されました。

①コンブやワカメを乾燥粉砕し、肥料や飼料に活用

②高圧で成分を抽出し高濃度の肥料化

③コンブ、ワカメに多く含まれている天然多糖類のアルギン酸を抽出し健康食品や医薬品、化粧品などを製造

コンブやワカメから色合い、素材面で商品に適さない葉先や根元周辺のコンブが一八五割(総水揚げの三四・五%)、ワカメは六二八割(同一六・七%) (いずれも昨年までの十年間平均)発生しています。

有効活用に向けた事業化の可能性を探るため検討委員会

は、来年のできるだけ早い時期に先進地視察を行うことを決めました。

事業として成立する製品は 価値の有る無しを含め検討

第三回コンブ等加工残さ有効利用調査検討委員会は、同十二月二十五日、同会議室で行われ

ました。コンブ等未利用資源の

表3 コンブ等未利用資源の利用方法の検討ケース

ケース	技術	加工方法	生産物	用途
ケースA	乾燥破砕	乾燥、破砕する	海藻破砕物、粉末	1) アルギン酸原料 2) 飼料 3) 肥料 4) 海藻粉末(健康食品、化粧品原料等)
ケースB	高圧圧搾抽出	高圧下で成分抽出、乾燥する	高機能肥料	肥料
ケースC	アルギン酸製造	アルギン酸を製造	アルギン酸(粉末)	アルギン酸として多くの用途

利用方法について、加工した製品の市場規模、価値などを考え合わせ、右表3のとおり三つのケースの利用方法が、コンサルタントであるミクニヤ環境システム研究所の研究者から示されました。